

【茨城県立太田第一高等学校附属中学校 各学年のグランドデザイン】

第1学年

何ができるようになるか
○各教科等で育成する資質・能力

何が身に付いたか
○各教科等の学習評価

- (1) 自ら課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる
- (2) 主体的に学び続ける資質・能力を身に付ける
- (3) 多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現できる

- (1) 課題を見出し、協働しながら創造的に解決できる力
- (2) 主体的に学習に取り組み、自らの学習状況を把握し、振り返りながら自己の学びを調整する力
- (3) 多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現できる力

- ・ICT 機器などを活用しつつ、主体的に学ぶ機会や対話的に学ぶ機会が少なく、深い学びを実践している生徒が少ないことが課題である
- ・学校行事やキャリア形成活動において、主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子供への指導

- ・教育相談体制を整え、学校、保護者、SC、SSW 等と連携を図り支援する。
- ・必要に応じて、生徒の特性を踏まえた個別的教育支援計画を作成するとともに、教職員間で共有を図り、学校全体で支援する。
- ・ライフスキル教育を通して、生きていくうえで必要なスキルを認識し、日常のさまざまな問題や課題に対処するためのスキルを指導する。

- ・教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒
- ・グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか
○各教科等の教育課程の編成

- (1) 探究を軸とした創造的な学びの環境の整備
- (2) 習熟度に応じた、多様な学びができる教育課程の編成
- (3) 多様な国や地域への理解を深めるとともに、グローバルな視野をもちつつ主体的に社会参画できる環境の整備

どのように学ぶか
○各教科等の授業の実施

- (1) 各教科での学び、総合的な学習の時間での探究活動や情報を活用する活動
- (2) 少人数学習、習熟度別学習、学習支援ソフト等を効果的導入し、個に応じた学習や学びの共有化
- (3) 英語科や社会科を中心とした各教科での学びと国際理解教育を通じたダイバーシティ教育の推進

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 【主体的な学び】 Google や Classi を活用した授業や家庭学習 / Qubena (AI 活用学習ツール) / 先取り学習 / 少人数・習熟度別授業 / A L T を活用した教科横断型授業
- 【探究活動】 探究プロジェクト / 地域探究セミナー / 探究活動発表会
- 【ダイバーシティ教育】 ライフスキル教育 / 東京グローバルゲートウェイ (TGG) / A L T による朝のSHR

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- ・基礎的・基本的な知識 ・問題解決的な学習を通じて育成される問題発見・解決能力 ・体験から学び実践する力
- ・話し合いを通じて育成される他者と協働する力 ・物事を多面的・多角的に見定める力